

## 地上最後の楽園

在セーシェル日本国大使館

セーシェルは、“Unique by a Thousand miles.”(千マイルでユニークな存在)といわれ、アフリカ大陸から千マイル(1600km)の距離に位置し、南北千マイル(1600km)に広がる海に花崗岩と珊瑚礁から成る 115 の島が浮かんでいます。このためセーシェルは美しい海や自然、珍しい動植物の宝庫であり、非常にユニークな存在となっています。そして、このようなセーシェルは、地上最後の楽園とも呼ばれています。

セーシェルの国土の約半分は自然保護区域となっています。世界遺産に登録されているアルダブラ環礁は、ゾウガメの生息地としては世界最大級で、15 万頭が生息しています。また、もう一つの世界遺産に登録されているヴァレ・ド・メ渓谷自然保護区には、セーシェル特有の双子ヤシ(ココ・デ・メール)が自生しています。

美しい自然や景観を活かした観光業がセーシェル経済を支える産業となっています。英国のケンブリッジ侯爵殿下(ウイリアム王子)と同妃殿下(キャサリン妃)がハネムーンを過ごすなど、世界各地の観光客がセーシェルを訪れています。また、日本では松田聖子の「セイシエルの夕陽」やサザンオールスターズの「セイシエル ～海の聖者～」の歌が有名です。白いビーチからインド洋に沈む夕陽を眺め、日々の喧噪を忘れてのんびり過ごす、非日常を楽しむことができます。

セーシェルでは美しい自然や景観を守るための取組を行っています。2018 年には気候変動対策や海洋資源保護等のブルーエコノミーに関する政策を策定しました。また、景観を守るため建物の高さは制限されており、かつては椰子の木を超える高さの建物は制限されていました。現在は「G+6」(グランドフロアー+6階=7階)までの建物が建設可能です。このような努力によって、地上最後の楽園が保たれています。

※ ブルーエコノミーとは、海洋のみならず、河川、湖沼を含めたあらゆる水に関する資源開発、資源保全、効率的利用(インフラ整備)、環境保護、安全保障までを含む広範な概念。)

